

白銅株式会社(7637)

2025年3月期中間期 決算説明資料

2024年11月13日

目次

- | | |
|---------------------|------|
| 1. 2025年3月期中間期 決算内容 | P.2 |
| 2. 2025年3月期 業績予想 | P.20 |
| 3. 重点戦略の実施状況 | P.24 |
| 4. サステナビリティ経営の取り組み | P.29 |

1. 2025年3月期中間期 決算内容

決算ハイライト

売上高

32,488百万円
(前中間連結会計期間比+13.2%)

売上総利益

5,194百万円
(前中間連結会計期間比+13.9%)

経常利益

1,777百万円
(前中間連結会計期間比+25.2%)

2025年3月期中間期サマリ

<売上高>

- ・半導体製造装置業界向けの販売量が、生成AI関連および中国向け需要拡大により増加したことを主因とし、売上高は前中間連結会計期間比13.2%増収。
- ・海外セグメントにおいても、中国・タイ・北米すべてのセグメントで売上高が増加。前中間連結会計期間比で827百万円増収。

<売上総利益>

- ・売上高増加による増益に加え、原材料市況の影響による棚卸資産影響額差益の増加により、前中間連結会計期間比13.9%増益。

<経常利益>

- ・営業利益や為替差益の増加により、前中間連結会計期間比25.2%増加。

連結損益計算書（PL）サマリ

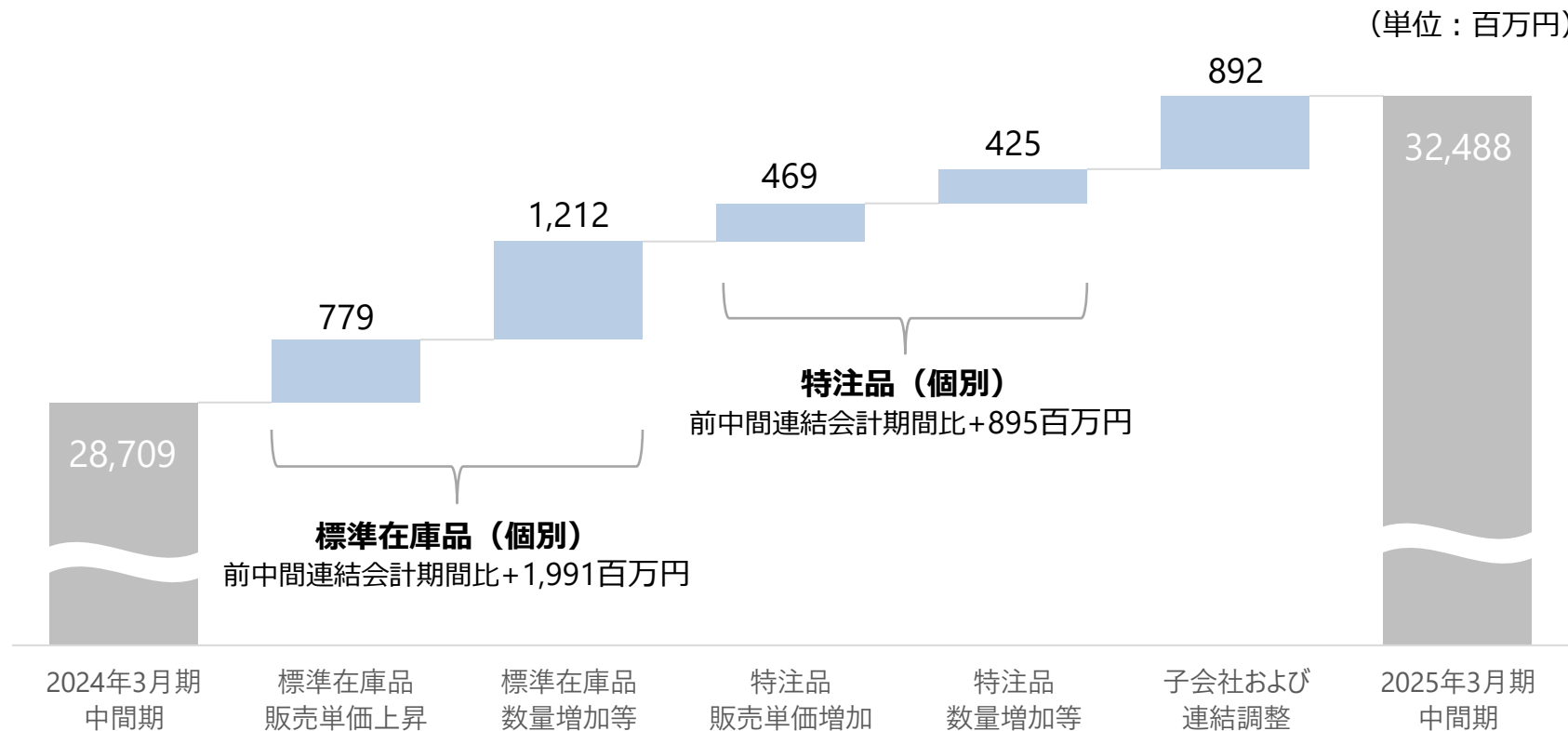
- 売上高は、生成AI関連および中国向けの半導体製造装置業界の需要拡大や、OA機器業界向けの販売量が増加したことにより、前中間連結会計期間比3,778百万円の増収。
- 経常利益は、増収の影響や棚卸資産影響額差益・為替差益の増加により、前中間連結会計期間比357百万円の増益。

（単位：百万円）

	2024年3月期 中間期	売上高 比率	2025年3月期 中間期	売上高 比率	増減率	増減額
売上高	28,709	-	32,488	-	13.2%	3,778
標準在庫品	17,121	59.6%	19,227	59.2%	12.3%	2,105
特注品	11,587	40.4%	13,260	40.8%	14.4%	1,673
売上総利益	4,561	15.9%	5,194	16.0%	13.9%	633
営業利益	1,220	4.3%	1,570	4.8%	28.7%	350
経常利益	1,419	4.9%	1,777	5.5%	25.2%	357
棚卸資産影響額 (△は損)	16	0.1%	236	0.7%	-	220
経常利益 (棚卸資産影響額を除く)	1,403	4.9%	1,540	4.7%	9.8%	136
親会社株主に帰属する 中間純利益	985	3.4%	1,223	3.8%	24.2%	238

売上高の前中間連結会計期間比差異要因

- 原材料市況の影響等による販売単価の上昇に加え、販売数量増加の影響が大きく、標準在庫品・特注品いずれの売上高も増加し、前中間連結会計期間比3,778百万円の増収。

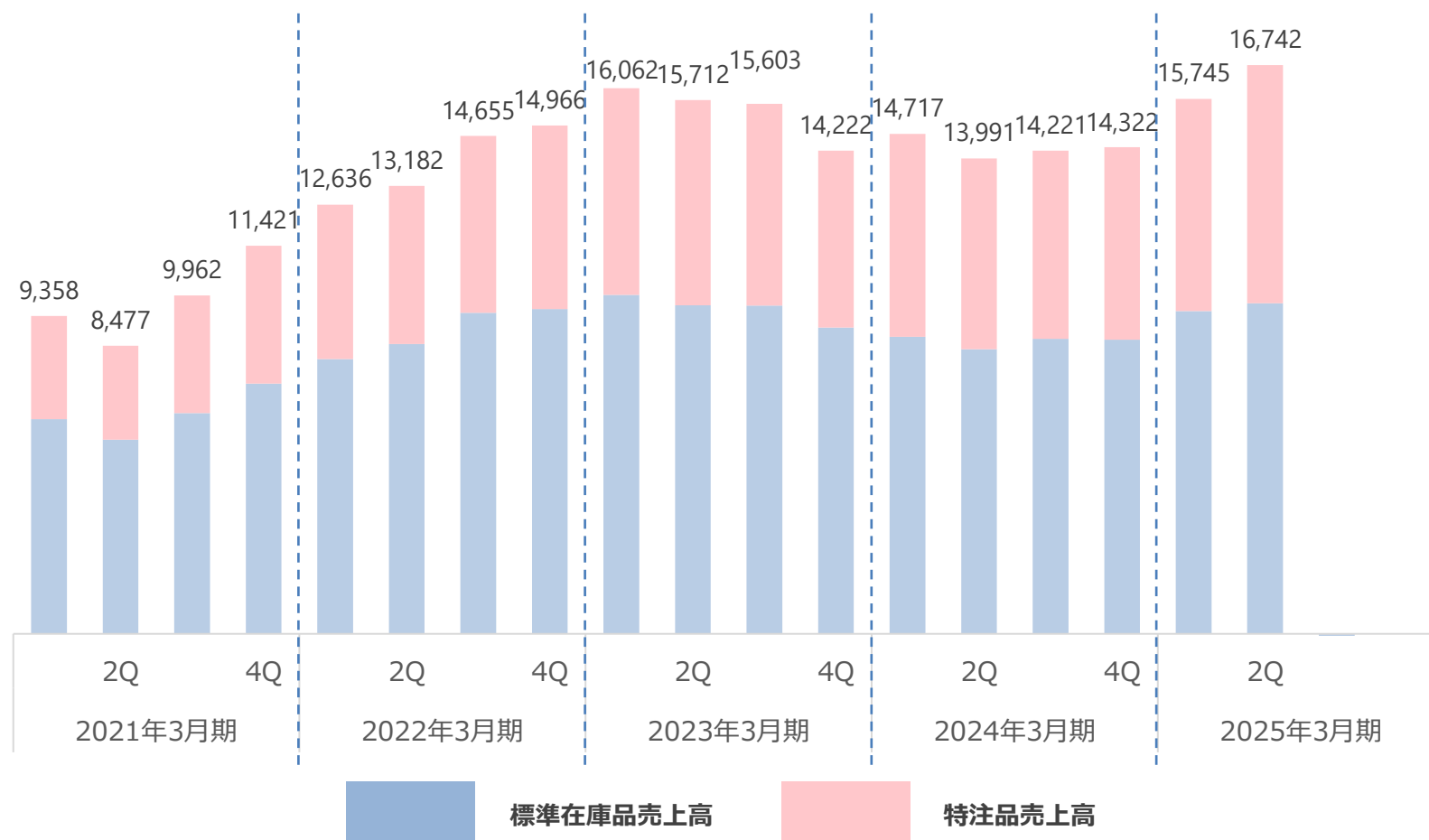


前中間連結会計期間比 白銅個別標準在庫品 販売重量：+7.5% 販売単価：+4.3%

売上高の四半期毎推移

- 半導体製造装置業界の停滞により2023年3月期4Q以降低調に推移も、2024年3月期2Qをボトムに回復。2025年3月期2Qは、直近5期の四半期売上高で最高額の16,742百万円となった。

(単位：百万円)



品種別売上高

- 半導体業界の回復傾向による販売量の増加および、原材料価格上昇による販売単価上昇等もあり、全品種において前年2Q期間比で増収となった。

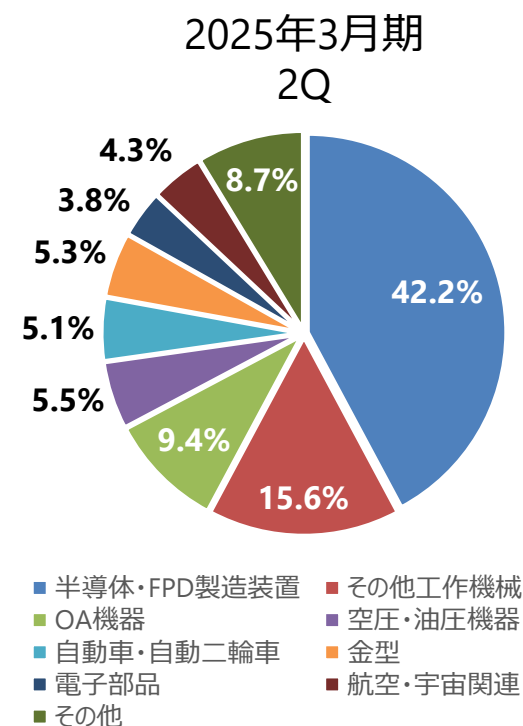
(単位：百万円)

	2024年 3月期				2025年 3月期		前年 2Q期間比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	
連結売上高	14,717	13,991	14,221	14,322	15,745	16,742	19.7%
アルミニウム	9,060	8,339	8,244	8,587	9,363	10,449	25.3%
伸銅	2,138	2,024	2,126	2,141	2,442	2,312	14.2%
ステンレス	2,830	2,971	3,074	2,947	3,061	3,122	5.1%
その他	687	655	774	645	878	857	30.7%

業界別売上高構成比率（国内）

- 半導体・FPD製造装置、OA機器、航空宇宙関連向けの売上高構成比率および売上高が前年2Q期間比で増加。
- その他工作機械、自動車・自動二輪車、金型業界など上記以外の業界においては、全体の売上高増加により売上高構成比率は減少しているものの、売上高はすべて増加。

	2024年3月期					2025年3月期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q
半導体・FPD製造装置	39.3%	38.5%	36.2%	36.4%	37.6%	37.3%	42.2%
その他工作機械	17.7%	17.7%	18.3%	18.0%	17.9%	17.8%	15.6%
OA機器	8.9%	9.0%	8.8%	11.6%	9.6%	10.3%	9.4%
空圧・油圧機器	7.1%	5.5%	5.7%	5.4%	5.9%	5.9%	5.5%
自動車・自動二輪車	4.7%	5.9%	6.3%	5.1%	5.5%	5.1%	5.1%
金型	4.8%	5.5%	5.6%	5.4%	5.3%	5.4%	5.3%
電子部品	4.1%	4.3%	4.2%	4.3%	4.2%	4.0%	3.8%
航空・宇宙関連	4.4%	3.8%	4.6%	4.1%	4.3%	4.3%	4.3%
その他	9.0%	9.6%	10.3%	9.7%	9.6%	10.0%	8.7%



セグメント別業績

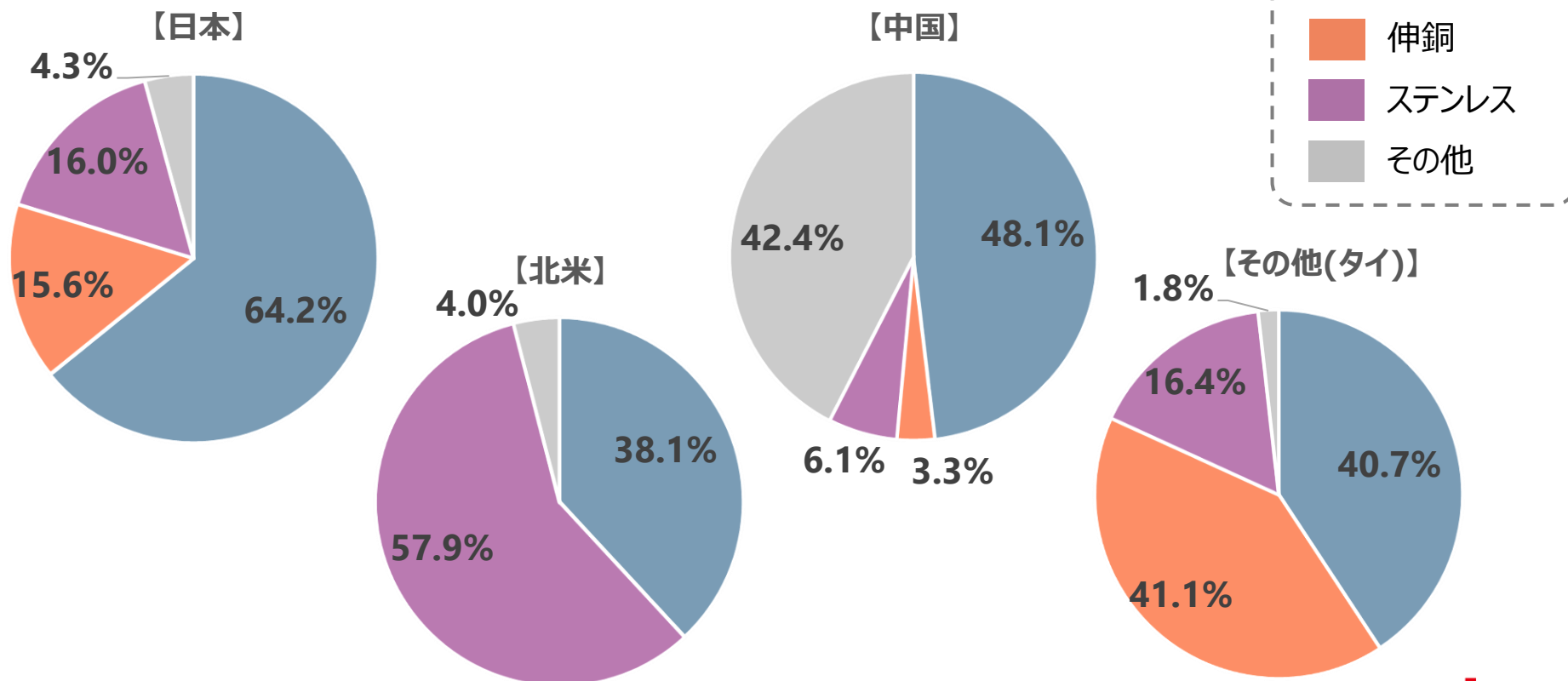
- 北米では93百万円の営業損失を計上したものの、円建て親子ローンの為替差益等の営業外収益により経常利益18百万円、前中間連結会計期間比で20百万円の増益となった。
- 中国は、2百万円の営業損失を計上したものの、不動産賃貸等の営業外収益により経常利益9百万円、前中間連結会計期間比で11百万円の増益。
- その他セグメント（タイ）は好調に推移しており、経常利益が前中間連結会計期間比で13百万円の増益。

（単位：百万円）

セグメント		2024年 3月期 中間期				2025年 3月期 中間期			
		売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 中間純損益	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に 帰属する 中間純損益
	日本	25,115	1,211	1,343	908	28,066	1,574	1,654	1,117
	北米	2,321	△54	△1	14	2,594	△93	18	23
	中国	614	△17	△2	△1	985	△2	9	7
	その他	658	80	80	64	841	92	94	75

2025年3月期中間期 セグメント別 品種売上高比率

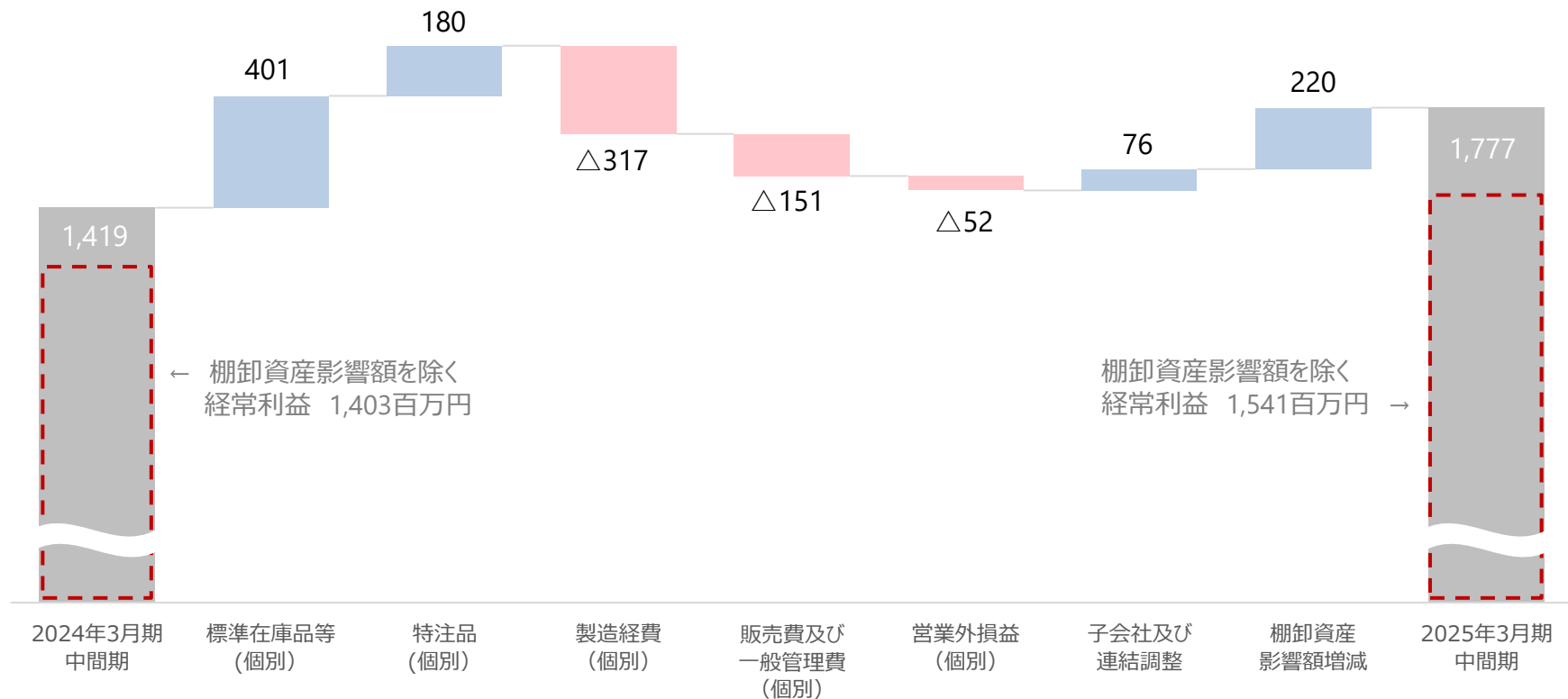
- 【日本】半導体製造装置業界向けの販売割合が大きい影響でアルミニウムが大きな割合を占め、伸銅・ステンレスの売上高比率が同等となっている。
- 【北米】住宅建設関係をメインの販売業界としているため、ステンレスの割合が大きい。
- 【中国】半導体製造装置業界向けの販売割合が大きい影響でアルミニウム比率が高い一方で、金型・自動車業界向けの特殊鋼含むその他品種の割合が日本より大きくなっている。
- 【その他(タイ)】金型・自動車業界向けの伸銅が大きな割合を占めている。



経常利益の前中間連結会計期間比差異要因

- 白銅個別の標準在庫品・特注品が、販売量増加および販売単価上昇の影響で大きく増加。
- 運賃、人件費、減価償却費等の各種コストは上昇しているものの、売上高・棚卸資産影響額差益増加の影響が大きく、前中間連結会計期間比357百万円の増益となった。

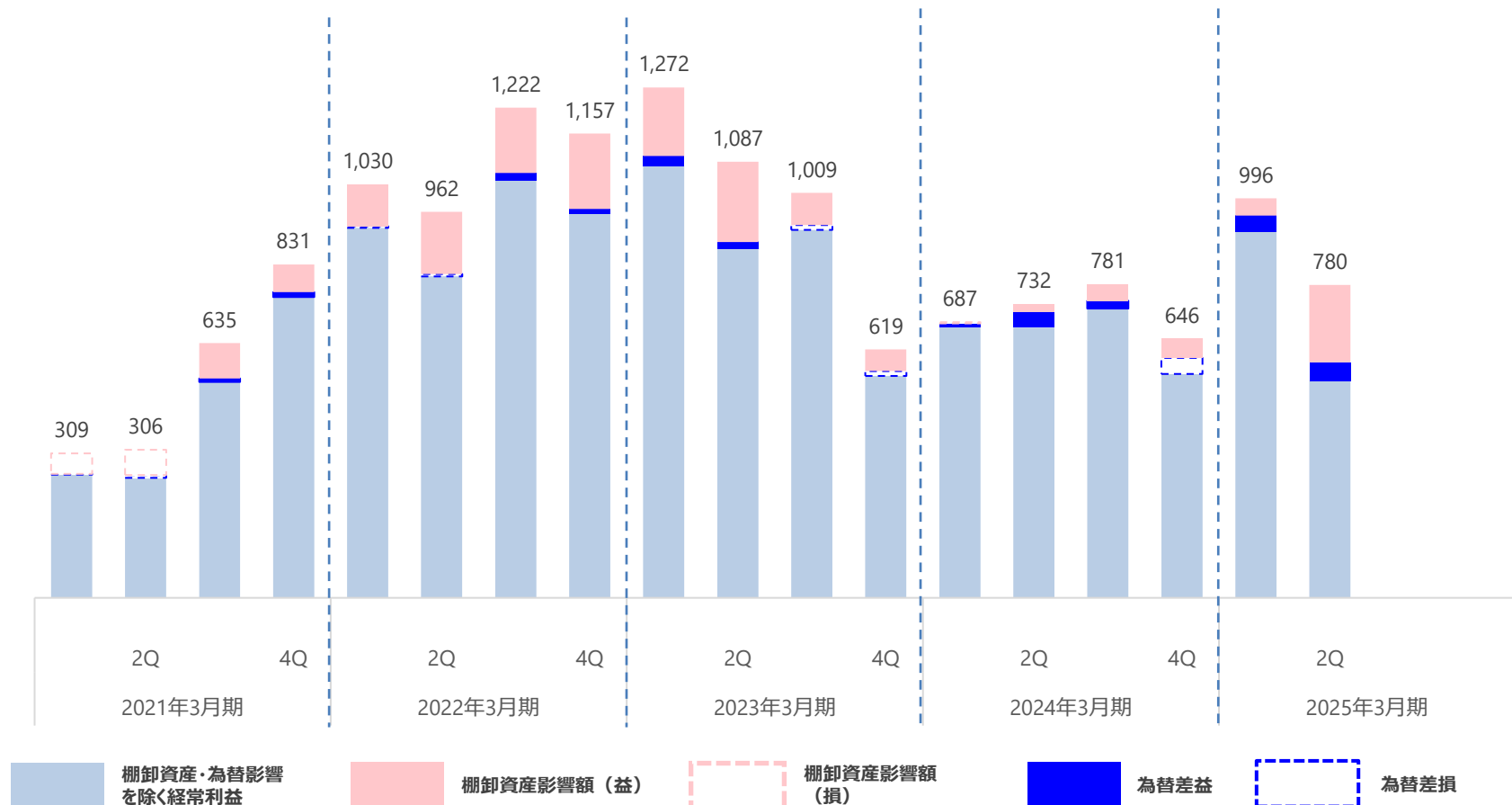
(単位：百万円)



経常利益の四半期毎推移

- 増収および棚卸資産影響額差益増加により、前年2Q期間比48百万円の増益。
- 前四半期(1Q)対比においては、製造経費等一時的に売上原価が増加したことにより215百万円の減益。

(単位：百万円)



連結貸借対照表 (BS)

- 直近の売上高増加に伴い、受取手形及び売掛金・棚卸資産・買掛金が増加。
- 円安の影響により、ドル建ののれん金額が前期末比で増加。

(単位：百万円)

資産の部	2024年3月末	構成比率	2024年9月末	構成比率	増減
流動資産	32,128	76.5%	33,784	77.2%	+1,656
現金及び預金	5,700	13.6%	4,445	10.2%	△1,254
受取手形及び売掛金 (含 電子記録債権)	16,052	38.2%	17,657	40.4%	+1,604
棚卸資産	10,221	24.3%	11,448	26.2%	+1,226
その他流動資産	153	0.4%	232	0.5%	+79
固定資産	9,887	23.5%	9,968	22.8%	+80
有形固定資産	6,653	15.8%	6,615	15.1%	△37
無形固定資産	1,422	3.4%	1,516	3.5%	+93
投資その他の資産	1,811	4.3%	1,836	4.2%	+24
資産合計	42,015	100.0%	43,753	100.0%	+1,737
負債及び純資産の部	2024年3月末	構成比率	2024年9月末	構成比率	増減
流動負債	19,420	46.2%	20,419	46.7%	+998
買掛金 (含 電子記録債務)	17,147	40.8%	18,173	41.5%	+1,025
未払金・未払費用	788	1.9%	926	2.1%	+138
未払法人税等	324	0.8%	607	1.4%	+283
その他流動負債	1,160	2.8%	711	1.6%	△448
固定負債	114	0.3%	82	0.2%	△32
負債合計	19,534	46.5%	20,501	46.9%	+966
純資産	22,481	53.5%	23,251	53.1%	+770
負債純資産合計	42,015	100.0%	43,753	100.0%	+1,737

流動資産 +1,656百万円

- 売上高増加による棚卸資産および売掛金の増加

固定資産 +80百万円

- 各種機械装置設備投資に伴う有形固定資産増加
- ドル建ののれん金額が円安の影響により2024年3月末比で増加 (+84百万円)

流動負債 +998百万円

- 売上高増加に伴う買掛金の増加

固定負債 △32百万円

- 1年超えリース債務減少

純資産 +770百万円

キャッシュ・フロー

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、売上高増加に伴う売上債権・棚卸資産の増加や、法人税の支払により △143百万円となった。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、国内における設備投資・IT投資などの実施により、△571百万円となった。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払いやリース債務の返済により、△532百万円となった。

(単位：百万円)

＜主な内訳＞

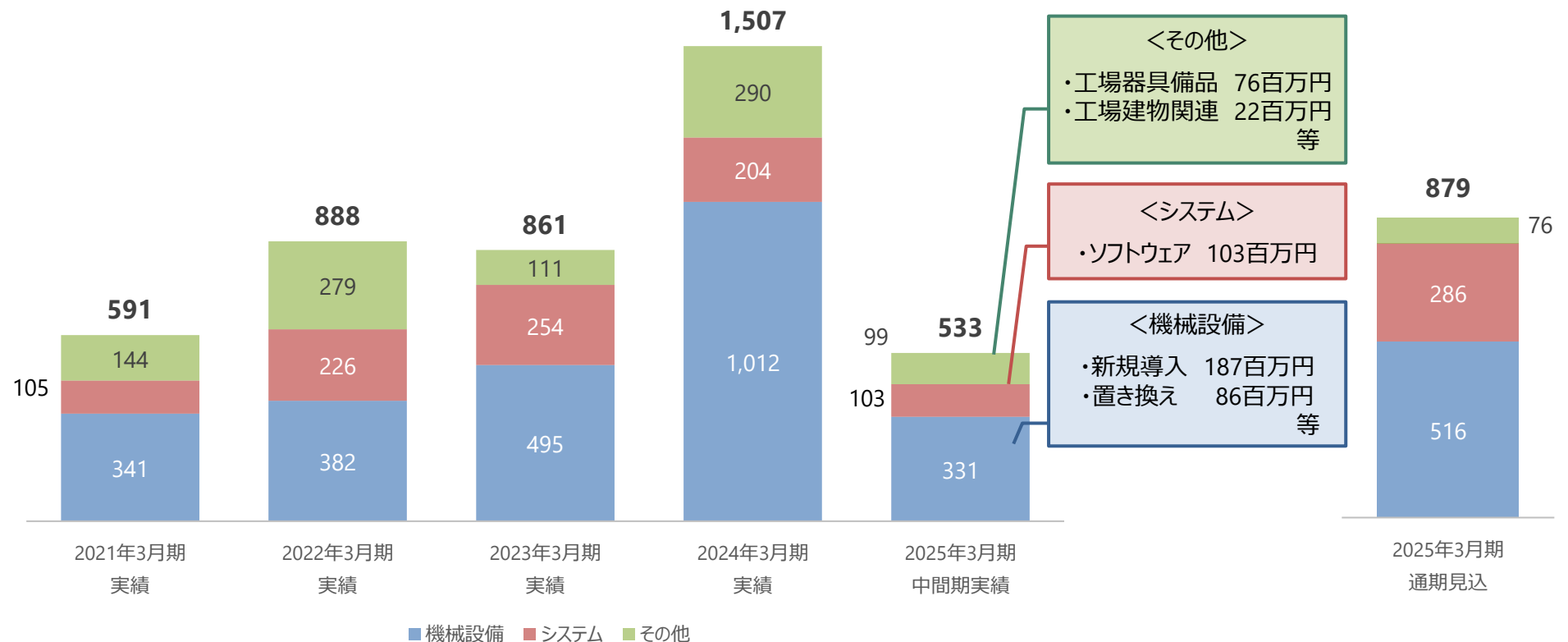
	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期
営業活動による キャッシュ・フロー	119	△143
投資活動による キャッシュ・フロー	△623	△571
財務活動による キャッシュ・フロー	△873	△532
現金及び現金同等物に係る 換算差額	63	△7
現金及び現金同等物の 中間期末残高	4,724	4,445

- ① 営業活動によるキャッシュ・フロー △ 143百万円
- ・税金等調整前中間純利益 : + 1,777百万円
 - ・減価償却費 : + 563百万円
 - ・のれん償却 : + 22百万円
 - ・売上債権の増減額 (△は増加) : △ 1,545百万円
 - ・棚卸資産の増減額 (△は増加) : △ 1,150百万円
 - ・仕入債務の増減額 (△は減少) : + 950百万円
 - ・法人税等の支払額 : △ 289百万円
- ② 投資活動によるキャッシュ・フロー △ 571百万円
- ・有形固定資産の取得に伴う支出 : △ 463百万円
 - ・無形固定資産の取得に伴う支出 : △ 100百万円
 - ・投資有価証券の取得に伴う支出 : △ 6百万円
- ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー △ 532百万円
- ・配当金支払額 : △ 509百万円
 - ・リース債務返済による支出 : △ 23百万円

設備投資の推移

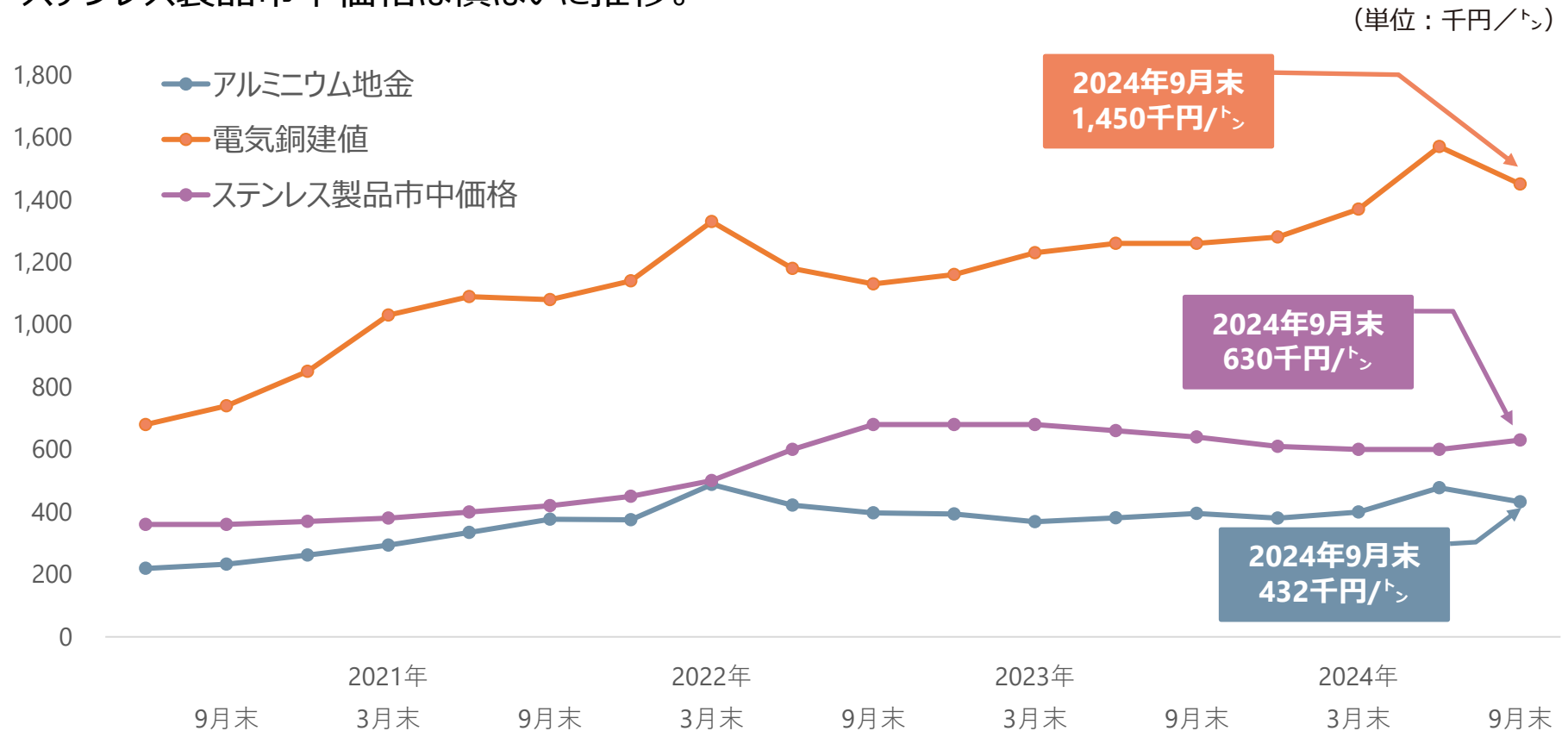
- 2025年3月期中間期においては、レーザー加工機導入等の機械設備投資や海外ECパッケージ導入準備等のシステム投資を実施。
- 2025年3月期下半期では、中国・米国ECパッケージの導入開始によるシステム投資を予定。

(単位：百万円)



事業環境（1） アルミニウム・銅・ステンレスの原材料市況

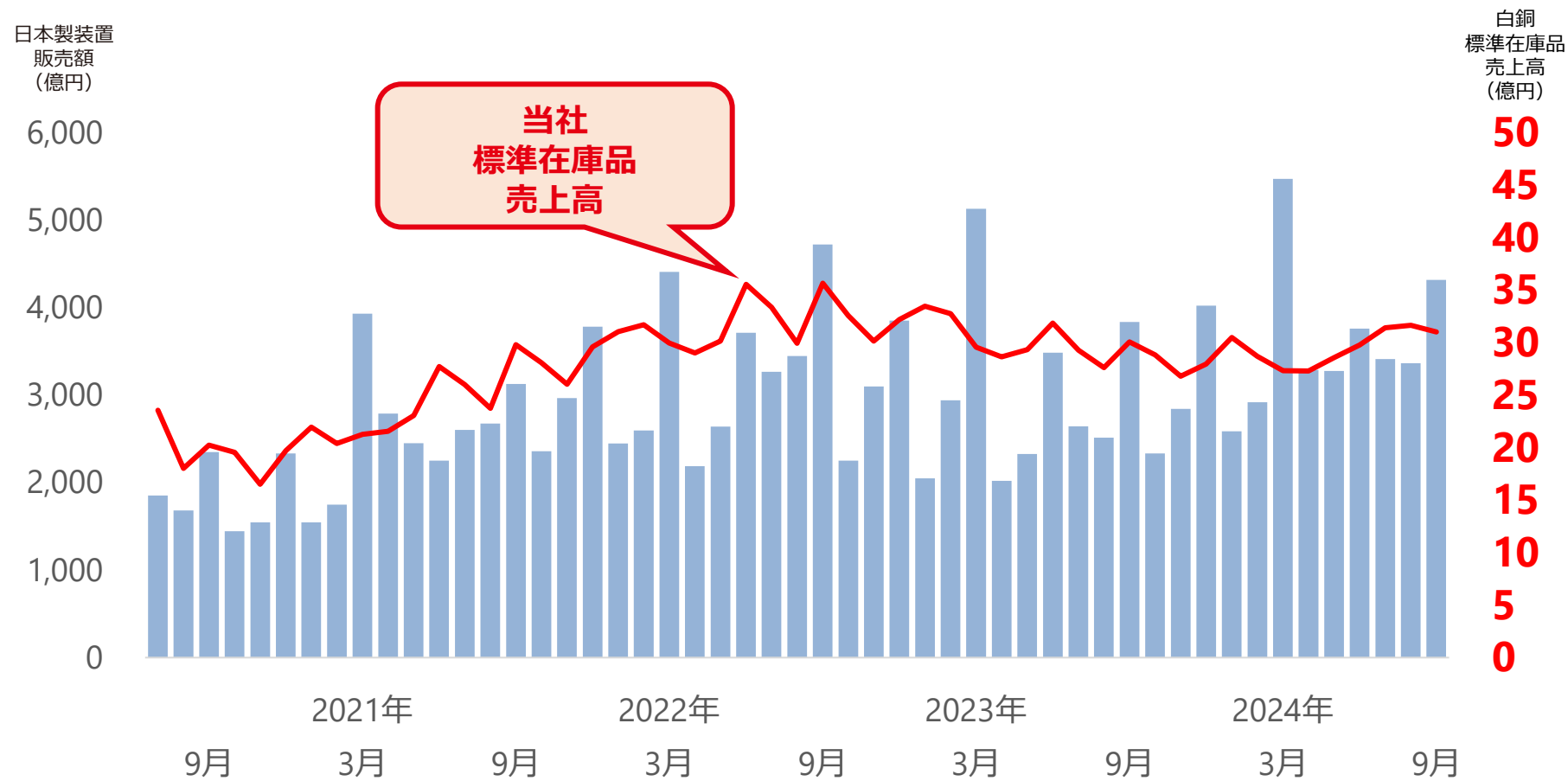
- アルミニウム地金価格は2023年3月末ごろより円安およびLME価格上昇等の影響により上昇傾向であったが、直近3か月では下降。
- 電気銅建値においても、2024年6月末対比で大幅下落。
- ステンレス製品市中価格は横ばいに推移。



電気銅建値：JX金属による算出 ステンレス鋼板：鉄鋼新聞月別中心値
アルミニウム地金：日本経済新聞月別平均値

事業環境（2）半導体製造装置販売額と標準在庫品売上高との比較

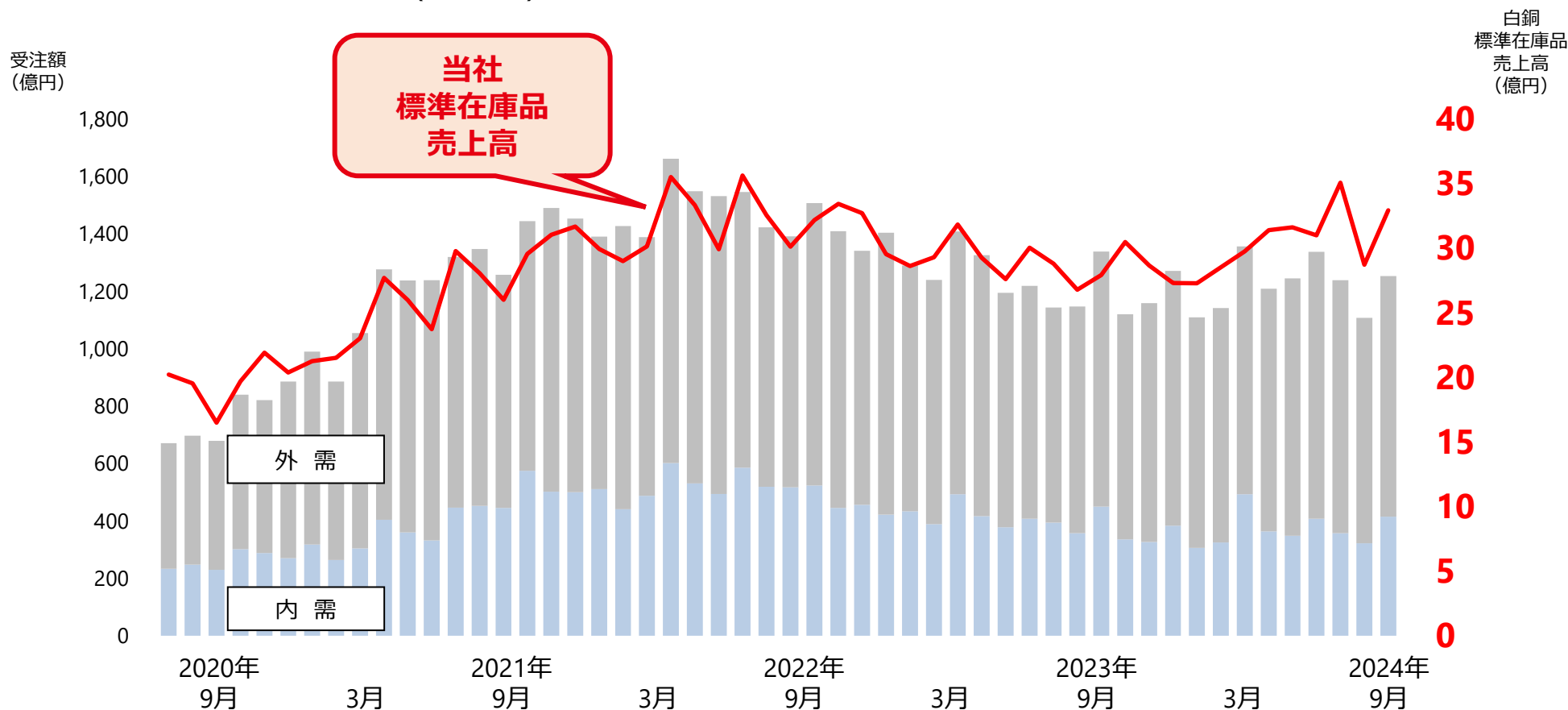
- 生成AI向けおよび中国の半導体用設備投資需要の拡大を受けて一部回復の動きが見られ、半導体メーカーの在庫調整、生産調整は底を打ったと見られる。
- ただし直近の金利の上昇、為替相場および株価の変動等により先行きは不透明。



出典：日本半導体製造装置協会 統計データ

事業環境（3） 工作機械受注額と標準在庫品売上高との比較

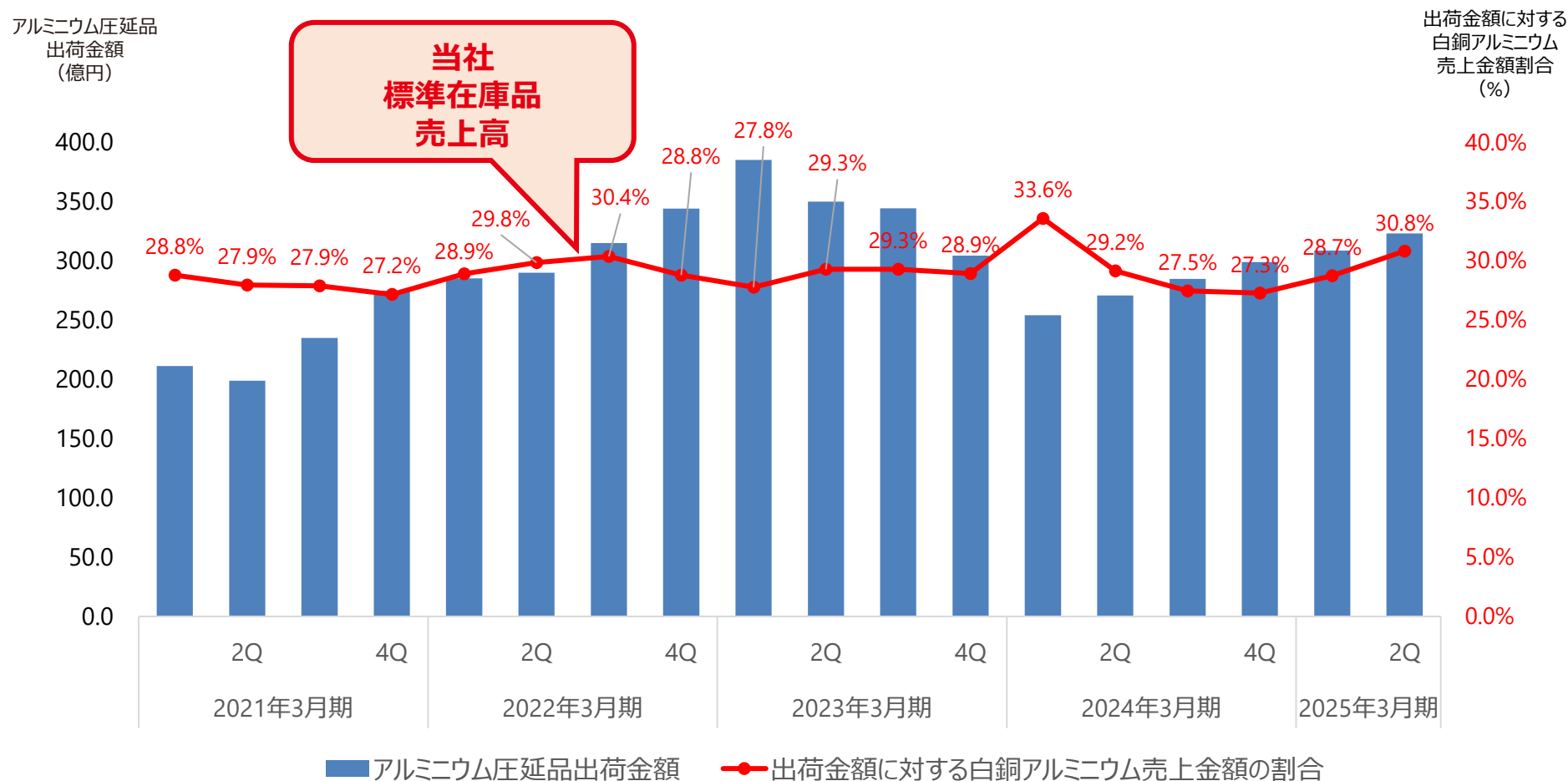
- 工作機械業界は世界的なインフレや高金利による景気減速の懸念等により設備投資が先延ばしされ、需要回復が遅延。
- 受注額は前年2Q期間(7~9月)比で内需8.9%減少、外需3.2%増加。



出典：日本工作機械販売協会 工作機械受注統計

事業環境（４） アルミ圧延品出荷金額と出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上割合

- アルミ圧延品出荷金額に対する当社アルミニウム製品売上は、引き続き30%前後で推移。



※ アルミニウム圧延品出荷金額は、板材(6.0mm以上)・円板・管・棒の合計

出典：一般社団法人 アルミニウム協会 アルミニウム圧延品統計月報より

2. 2025年3月期 業績予想

2025年3月期 業績予想

- 上方修正予想(※1)に対し、経常利益は僅かながら未達となるも、売上高、営業利益、親会社株主に帰属する中間純利益では達成となった。
- 直近の日本における金利上昇、為替相場や株価の変動、および、原材料市況等先行きが不透明なことを勘案し、通期業績予想は引き続き据え置きとする。

(単位：百万円)

	2025年3月期 中間期 予想値	2025年3月期 中間期 実績	達成率	増減額	2025年3月期 通期予想	進捗率
売上高	31,800	32,488	102.2%	688	64,100	50.7%
営業利益	1,560	1,570	100.7%	10	3,060	51.3%
経常利益	1,780	1,777	99.8%	△2	3,200	55.5%
親会社株主に帰属する 当期（中間）純利益	1,220	1,223	100.3%	3	2,140	57.2%

※1 半導体製造装置業界の一部回復の動きや地金価格の上昇の影響で、第1四半期に中間期の業績予想の上方修正を実施

株主還元策（配当実績と予想）

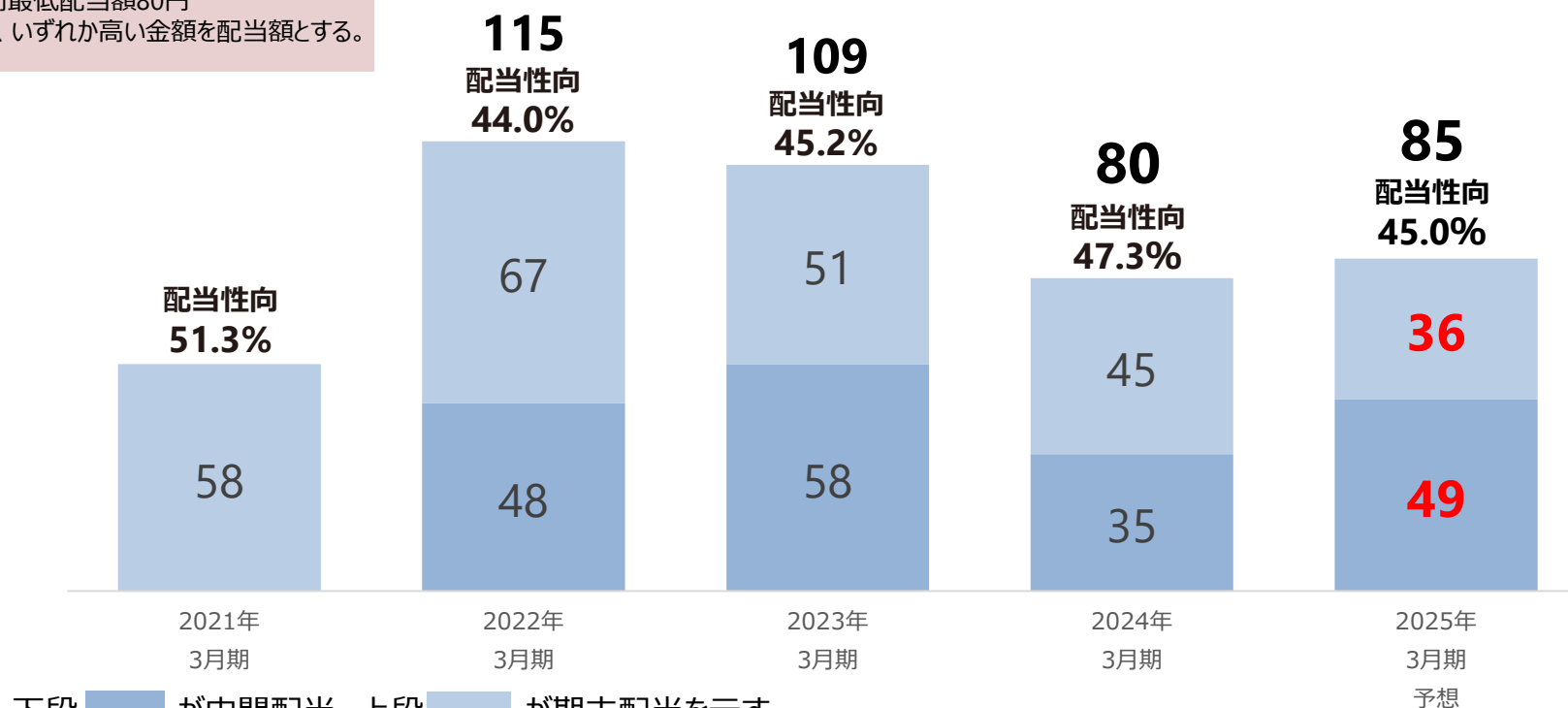
- 2025年3月期中間配当は期初予想から9円増配の1株あたり49円の配当を実施。
- 2025年3月期通期配当予想は1株あたり85円で据え置き。

2025年3月期 配当予想

配当方針

・通期配当性向45%以上
・年間最低配当額80円
原則、いずれか高い金額を配当額とする。

（単位：円）



※2022年3月期は記念配当9円を含む金額

株主還元策（株主優待制度）

- 2024年1月より、基準日を毎年9月末から毎年3月末に変更。
- 保有単元数や付与されるポイントなどの基準日以外の変更はない。

株主優待制度

毎年3月末の当社株主名簿に記載又は記録された3単元(300株)以上保有の株主様を対象とし、保有株式数に応じてポイントを贈呈いたします。贈呈されたポイントは、株主様限定の特設ウェブサイト「白銅プレミアム優待倶楽部」において、5,000点以上の厳選された商品からお好きな商品、他のプレミアム優待倶楽部導入企業の優待ポイントと合算可能な共通株主優待コイン『WILL s Coin』に交換することができます。

株主優待ポイント表（1ポイント≒1円）

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株未満	0ポイント	—
300～399株	3,000ポイント	毎年5月
400～499株	5,000ポイント	
500～599株	10,000ポイント	
600～999株	20,000ポイント	
1,000～1,999株	30,000ポイント	
2,000～2,999株	40,000ポイント	
3,000株以上	50,000ポイント	

商品の一例



3. 重点戦略の実施状況

2025年3月期の取組予定

- 2025年3月期の重点戦略方針の主な取組予定は以下のとおり

中期経営計画で設定した重点戦略方針		2025年3月期 取組予定（一部抜粋）
ビジネスの 進化による 事業成長	① 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上	✓ 取扱アイテム数の更なる拡充、粗利益の増大 ✓ 白銅ネットサービス（CSネットサービス含む）利用者数の増加 ✓ 海外子会社におけるECサービスの導入
	② 加工会社のネットワーク化を含む加工機能・供給能力の強化	✓ 図面加工サービスの強化、自動見積機能の運用 ✓ レーザー加工機導入等による加工機能強化
	③ SCM改革による調達・供給能力の強化	✓ 省人化・工場平準化のための自動加工機の追加導入
	④ 成長領域の拡大・営業強化	✓ 顧客ニーズのヒアリングと材料メーカーへの情報伝達 ✓ 新加工設備を活用した拡販 ✓ 新規休眠顧客・既存顧客を区別した営業活動の展開 ✓ アルミニウム・ステンレスの薄板在庫拡充によるシェア拡大
	⑤ 海外事業の拡大	✓ 米国子会社の事業拡大 ✓ 米国・韓国・台湾のさらなる投資先検討
経営基盤 の強化	⑥ 企業価値向上のためのデジタル基盤強化	✓ RPA・IoTを用いた業務効率化
	⑦ 人材の拡充と既存人材のレベルアップ、エンゲージメント向上	✓ ジョブ型を採り入れた人事制度の見直し ✓ 従業員満足度向上に向けた福利厚生の拡充
	⑧ 戦略実現のためのPDCA管理強化	✓ 各KPIの進捗確認
	⑨ ガバナンスの強化	✓ JIS Q 27001の取得範囲拡大

重点戦略の実施状況

(1) 白銅ネットサービスの進化による顧客基盤の強化・拡大と利益率の向上

当社標準在庫品
約**5,500**アイテム
+
他社在庫品(取寄せ)
約**109,800**アイテム

※2024年9月末時点

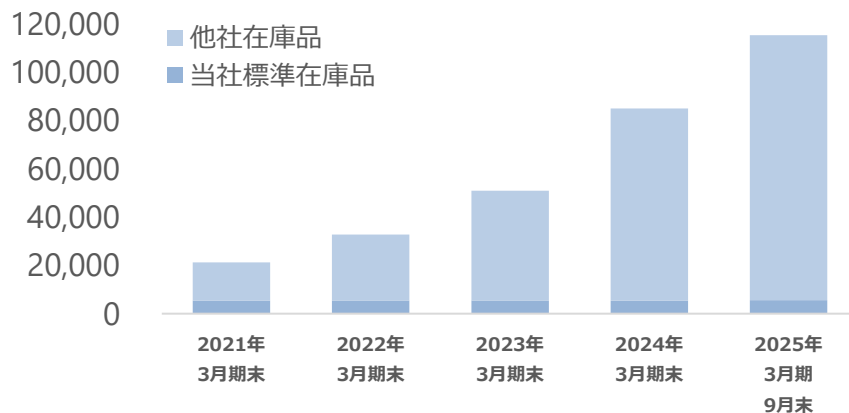
ご利用企業様数
約**12,800**社様
ご登録ユーザー様数
約**25,500**名様

※CSネットサービスの登録件数を含む
※2024年9月末時点

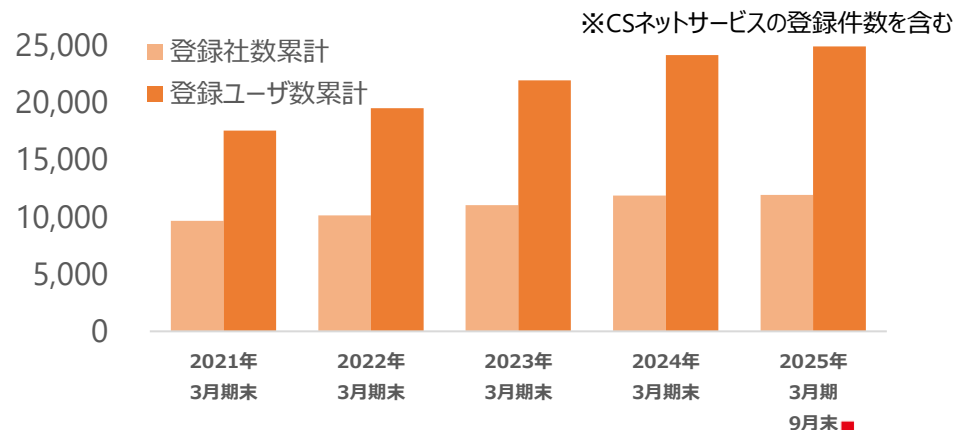
海外ECパッケージ
タイ導入済み
中国・米国は
下半期導入予定



【白銅ネットサービス ご利用可能アイテム数】



【白銅ネットサービス ご利用登録社数推移（累計）】



重点戦略の実施状況

(2) 成長領域の拡大



専門部署による業界の集約

半導体関連の販売先を専門部署に集約し、業界ナレッジを蓄積する仕組みを構築



新規顧客獲得

金属3Dプリンターを契機に自動車関連の新規顧客を獲得し、他商材の拡販も展開

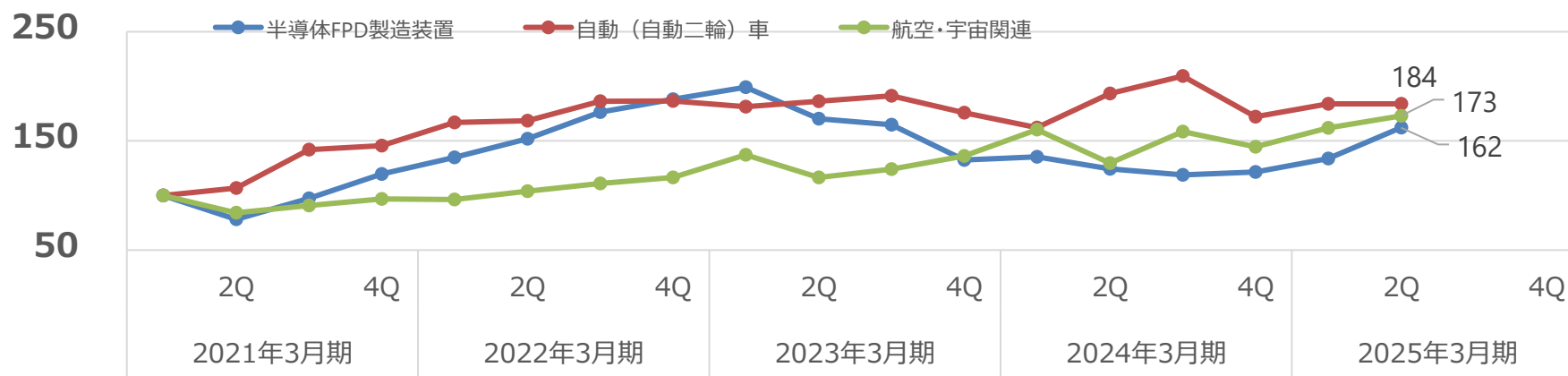


海外材輸入機能強化

WCAS社と連携し、海外メーカー製航空宇宙規格材の輸入機能を強化

【成長領域の売上高指数の四半期推移】

※2021年3月期1Qの売上高を基準とした売上高指数の推移

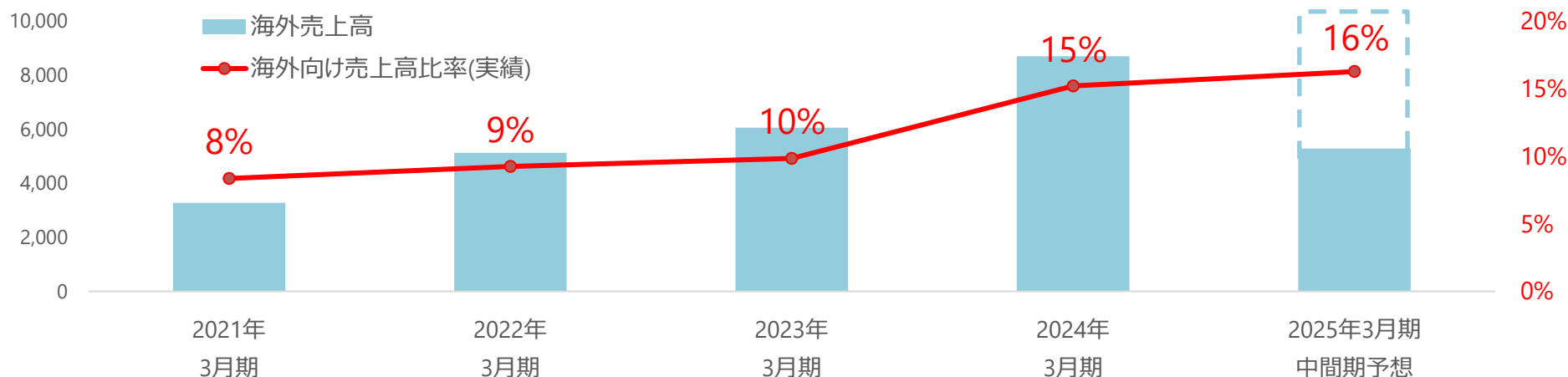


重点戦略の実施状況

(3) 海外事業の拡大

海外事業の売上高と海外売上高比率の推移

(単位：百万円)



※海外売上高は海外子会社売上高と海外子会社以外への本社輸出売上高の合計金額で算出

活動状況

◆ 各拠点の事業拡大

中国・米国子会社でのEコマース事業の導入準備を進行中。タイは導入済み。
東南アジアでは、ベトナムを中心に販売代理店パートナー経由の売上高拡大を目指す。
米国子会社での非鉄金属の輸入卸売・加工事業を拡大。

◆ 出資・提携先の検討

米国・韓国・台湾を中心に更なる投資先の検討および訪問、協議を実施中。台湾では、一部、試験的な取引開始済。

4. サステナビリティ経営の取り組み

サステナビリティ経営の取組状況（1/3）

- ESG/SDGs経営委員会の下に設置した分科会の活動項目や目標に対して、現在までの取り組み状況を下表に記載。取り組み状況などを取締役会に報告し、提言や助言を踏まえて活動中。
- CO₂排出量は2030年度までの削減目標を前倒しで達成。
- 福島工場への太陽光パネル設置準備や営業車におけるEV導入の拡大など、CO₂排出量削減に向けた取り組みを実施。また、2024年10月よりFIT非化石証書の仲介販売サービスを開始。

マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期中間期までの取組状況
1. 環境負荷軽減 ・気候変動対応	CO ₂ 排出量の削減	2030年度までに42%削減（2020年度対比） 2050年度までのカーボンニュートラル達成に向け、具体的な削減策に着手	- CO₂排出量 - 自力施策により削減するCO₂排出量	✓ 福島工場への太陽光パネル設置準備 ✓ 電気自動車を計6台導入 ✓ 2023年度、CO₂排出量の削減目標達成(2020年度対比42%削減)
	製造効率の改善	- 天然資源の節約・枯渇抑制、環境汚染抑制による社会貢献 ・配送効率改善 ・産業廃棄物削減 ・スクラップ率低下	- 消費電力量 - 運賃低減率 - 廃棄物金額 - 製造部門消耗品費	✓ 配送網の再構築による効率化など配送効率の改善活動を実施 ✓ 設備の待機電力削減 ✓ 切削油リサイクルの施策を継続実施 ✓ 環境に配慮した梱包資材の導入
	オフィスペーパーレス化の推進	- 資源の無駄を排除し、リサイクル化を推進 - コスト削減とともに、自然環境保護へ貢献	オフィス印刷費用	✓ 会議資料の電子化による印刷費用の削減
2. 責任あるサプライチェーンの構築	環境配慮製品の強化	- 環境負荷に配慮した経営による社会貢献 - 環境負荷の少ない商品（ECO商品等）の安定供給	ECO商品販売重量	✓ ECO商品拡販とECO商品ラインナップ拡充
	グリーン調達促進	サプライヤーに白銅独自のグリーン調達ガイドラインの遵守協力を促進	グリーン調達ガイドラインの遵守先との覚書取交件数	✓ グリーン調達ガイドラインのHPへの開示と取引先とのガイドライン順次締結
	サプライヤーとの関係強化	- サプライヤーと協力し、CO₂削減に配慮した施策の実施 - サプライチェーン全体におけるCO₂削減を促進	- グリーンアルミ調達先発掘 - リサイクルアルミ調達先発掘	✓ CO₂排出量を抑えた“ECO63S四角棒”の販売 ✓ CO₂排出量を抑えた商品の導入検討
	人権の尊重	サプライチェーン上のパートナーと協力し人権に配慮した経営を促進する活動を実施	自社における人権ポリシーの策定、運用	✓ 人権デューデリジェンスへの取り組み ✓ 白銅グループ人権方針の浸透活動 ✓ 持続可能なサプライチェーンガイドラインのHPへの開示と取引先とのガイドライン順次締結

サステナビリティ経営の取組状況（2/3）



マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期中間期までの取組状況
3. 社会への取り組み	次世代への貢献	● 日本のものづくりの発展や人材育成の支援 ● 次世代の技術の発展や人材育成への貢献	● 産学協働検討案件数	✓ 大学の研究室へ訪問し、協働可能な案件を模索 ✓ 学生向けの工場見学会の開催
	社会への貢献	● 持続可能な社会への貢献 ● 従業員が誇りを持ち、社会から信頼される企業となるための取り組み	● 地域社会、団体への貢献活動	✓ 寄付型自動販売機による継続した寄付の実施 ✓ 社内の書籍を収集し、古本募金を実施
4. 人材への投資	従業員満足度向上	● 従業員各自の生産性や顧客対応へのモチベーションの向上 ● 社会に与える影響力（社会貢献）、会社の業績に与える影響力の向上	● 離職率 ● 平均残業時間 ● 有給取得率 ● 男性の育休取得率	✓ 有給休暇の取得しやすい環境づくり ✓ 福利厚生に関するアンケートにもとづく、改善策の検討 ✓ スポーツクラブ利用促進のためのサポート継続
	ダイバーシティの促進	● 多様な人材を登用、活用し、組織の生産性や競争力を向上	● 障がい者雇用率 ● 女性管理職比率 ● 外国籍管理職比率	✓ 障がい者向けの職場体験実施により、継続的な雇用を促進 ✓ 女性管理職研修及び女性管理職育成研修の実施検討 ✓ 外国籍従業員の積極的な社員登用の実施
	健康で働きやすい環境の整備	● 従業員の心の健康、身体の健康を促進 ● 社会生活における充実度の向上	● 高ストレス者比率 ● ハラスメント発生件数 ● 労働災害度数率	✓ 健康経営の推進継続（健康優良企業「銀」取得） ✓ アンケート結果による高ストレス要因の分析 ✓ 専門家によるカウンセリングの実施 ✓ 職場巡視の強化によるヒヤリハットの未然防止
	社員教育の拡充	● 業務上で必要な知識・スキルの提供 ● 知識やスキルを身に着ける為の機会の提供	● 一人当たり教育費用	✓ 年間教育計画に基づく教育の実施 ✓ 新入社員研修の充実

サステナビリティ経営の取組状況 (3/3)



マテリアリティ	取組テーマ	2027年3月期までの活動目標	2027年3月期までのKPI	2025年3月期中間期までの取組状況
5. コーポレートガバナンス	違反者ゼロ	ゼロ・トレランスを目指した教育の実施	コンプライアンス違反件数ゼロ	✓ コンプライアンス研修の実施 ✓ コンプライアンスにおける理解度チェックの実施
	ポリシー遵守状況確認	- 各方針・ポリシーの遵守 - 白銅グループ人権方針 - プライバシーポリシー - コーポレートガバナンス基本方針 - サステナビリティ基本方針 - ディスクロージャー基本方針 - 社内環境整備方針 - 教育・育成方針	左記の方針・ポリシーの対応状況確認	✓ 教育動画を配信し、全従業員の遵守度向上を推進 ✓ 方針・ポリシーガイドブックの配付
	事業リスク・災害への対応強化	- 事業リスク評価とBCP見直しの徹底 - 訓練・対策実施により、従業員の安全確保と円滑に業務を再開する仕組みの構築	- リスク評価ポイント - 防災訓練等の実施数	✓ リスク評価ポイントの見直し ✓ 全社一斉の安否確認訓練実施 ✓ 防災訓練実施
6. ESG/SDGs経営委員会の社内浸透活動	社内浸透活動の推進	- ESG/SDGsに対する意識の向上 - ESG/SDGsに関する啓蒙活動、イベントの実施	- ESG/SDGsの従業員定着率(アンケート調査による) - エピソードコンテストの累計件数	✓ サンクスカード導入による、従業員の円滑なコミュニケーションを推進 ✓ ESG/SDGs関連のポスター・書籍・動画の配付・配信 ✓ 植林・環境系ボランティア活動の調査
7. ESG/SDGsに関連した新商品・新サービスの創出	商品・サービスの具現化	新商品・新サービスの創出	新商品・新サービスの導入件数	✓ FIT非化石証書の仲介販売準備 ✓ CO₂オフセット関連の商品・サービスを検討中

サステナビリティ経営の取り組み例



白銅は、モノづくりを通じた社会への貢献に加えて、自社農園による雇用創出など幅広い活動を行っています。

白銅ファーム



白銅は障がい者就労促進の一環として白銅ファームを運営しています。神奈川県横浜市と埼玉県三郷市に拠点を設け、2024年10月現在、11名の従業員が在籍しており、葉物野菜をメインに約30種類を栽培しています。

収穫した野菜は、子ども食堂への寄付や当社従業員に配付しています。

※ 2024年10月末時点の情報を元に作成

スーパーミニマム チャレンジ



スーパーミニマムチャレンジとは、50ccエンジンによる最速記録に挑戦するプロジェクトです。米国ユタ州のボンネビルで毎年開催されています。

バイクには白銅が提供したアルミ材が使用され、2019年大会では世界最速記録を更新しました。

最近では、3Dプリンター造形部品も使用されています。

コマ大戦



コマ大戦とは、全国の製造業者が制作したコマを持ち寄って戦うトーナメント式の大会です。各県で高校生コマ大会も開催されています。

神奈川県高校生コマ大戦には白銅が材料を支給して協賛するなど、日本のモノづくりの発展のための活動を行っています。

下町ボブスレー



下町ボブスレーは、大田区の小さな町工場が中心となり、世界トップレベルのソリを作り、産業のまち大田区の「モノづくりの力」を世界に発信するプロジェクトです。

下町ボブスレーの材料は白銅が無償提供しており、製作されたボブスレーは2023年1月の世界選手権で19位の成績を残しました。

(写真提供：国際ボブスレー連盟 IBSF)

ご清聴ありがとうございました

■白銅公式SNSアカウントについて

弊社では、LINE、Facebookの公式アカウントを開設し、商品紹介や展示会の出展案内などのお役立ち情報を定期的に発信しております。右記のQRコードから、是非、お友だち追加をお願いします！

■本資料における注意事項

この資料には、2024年11月現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競業状況等に関わるリスクや不安定要因により実際の業績が記載の数値と大幅に異なる可能性があります。

■お問合せ先

白銅株式会社 経営企画課
メールアドレス：hkdkeiki@hakudo.co.jp
ホームページ：www.hakudo.co.jp

